

古いにしえに擬ぎす（河野鉄兜こうのてつとう）

生子當如玉 娶妻當若花
丈夫天下志 四十未成家

子こを 生うまば 当まさに 玉たまの 如ごとく なるべし

解説 志を天下に馳せる、男子の本懐を詠う。

妻つまを 娶めとらば 当まさに 花はなの 若ごとく なるべし

語釈 ※丈夫⇨成人した男子。 ※天下志⇨功名を天下に表そうとする気持ち。 ※家⇨家庭。

丈夫じょうふ 天下てんかの 志こころざし

通釈 子を生むのであれば、玉のような子を生みたいものである。妻をめとるなら、花のような美しい女性を妻にしたいものである。私は天下に志を抱く男である。その為、四十歳になっても家庭を持つことができなかった。これも仕方あるまい。

四十しじゅう 未いまだ 家いえを 成なさず